

原子力産業新聞

第91号

昭和33年12月5日
毎月3回(5日、15日、25日)発行
購読料 1部7円(送料不要)
1年分前金200円

昭和31年3月12日第三種郵便物認可

発行所 日本原子力産業協会

東京都港区芝田村町1の1(東電ビル3階)

電話(59)6121-4

振替東京5895番

ジョン・S・グレラム氏来日

原産で懇談会を開く

原子力委、関係筋とも会見

アメリカの原子力委員ジョン・S・グレラム氏は十一月二十五日午後七時五十分羽田着の日航機で、随行のAEC法律担当補佐官ニール・D・ナイデン氏と来日した。アメリカの原子力委員が日本を訪れたのはこれが初めてで、フリードマン訪問後、入京したものである。

この度の旅行は、東洋、日本の原子力事情を視察するためである。日本では原子力委員会や政府関係者と会見し、原子力に関する施設を見たり、日本原子力産業協会の懇談会に出席したりする。



原産の懇談会 正面左からバーンズ、ベニングトン、降旗(通訳)グレラム、大屋、ナイデン、レスラーの諸氏

八日間のあしあと
リチャード・J・バーンズ氏、アグレラム氏は二十六日アメリカ大使館を訪問したが、午後は人事院ホテルで開かれた原子力委員長とビルの原子力委員会に会い、夕食の晩餐会に臨んだ。

原子力協定等承認

参院の議決なく自然成立

日英原子力一般協定、日米原子力一般協定ならびに同改訂協定書に対する国会承認が、十一月一日の閣議で承認された。この協定は、この日政府に通告した。この三案は十一月一日衆議院で承認の

R1工業利用専門視察団報告会

八氏分担事項を講演

来る十日 銀座ガスホールで

日本原子力産業協会、日本生産性本部共同主催の「R1工業利用専門視察団報告会」は、十一月十日午後一時から東京銀座の東京ガス・サービスセンター六階、銀座ガスホールで開かれ、宗宮団長八氏が報告講演する。

R1工業利用専門視察団は、さき六日到着したため、報告会を開くことにした。報告事項は、R1利用状況、R1利用による生産性の向上とその経済的効果の実態をつかみ、わが国工業界の利用を促進し、生産性の向上に役立てると共に、将来の個別的な基礎を築くためである。

宗宮東大名誉教授(フイット)委員委員長を団長とする一行十二名は、七月十七日羽田を出発、アメリカ各地を八週間にわたって視察した。のち八月末フイットで一たん解散したが、再びチームを組織してヨーロッパに飛び、二週間各地を回って九月十四日ロンドンで解散した。

帰国後の団員は、打合せのうえ、各担当事項を整理する一方、記者団と会見し、国内に対する一応の報告を行なった。しかしその後も資料を検討するなど、さらに調査を進めながら、再度アメリカに渡った宗宮団長の帰国をまつてきたが、同氏は昨朝のよるに十一月十

第五回理事會

日本原子力産業協会の第五回理事會は、十一月九日正午から、東京丸の内東京会館で第五回理事會を開き、役員変更その他について審議する。

一周年記念講演會

菊池原子力委員を招いて

日本原子力産業協会が、菊池氏は今後わが国の原子力開発方針と産業界について講演するに当たって、十一月十二日午後一時から同所で委員會を開き、役員の変更その他を決定する。

関西 原子力懇談會

関西原子力懇談會は、十一月十二日午後一時から同所で委員會を開き、役員の変更その他を決定する。

第十七回幹事會

原産関西原子力懇談會では十一月二十五日午後一時から大阪商工会議所で第十七回幹事會を開き、発足一周年記念行事、来年一月から三月までの事業計画などを審議し、原産調査委員山本俊次氏の「日米、日英動力協定の問題について」と題する講演を聞いた。

お買物は 白木屋

石川、兼重両氏、石川、兼重両氏、原子力委員兼任原子力委員の任期は十一月末までとなっているが、このほかに内定した。

報告分担事項

△視察概況(宗宮団長 十五分)
△欧米におけるR1工業利用の現状と問題点
①新しい工業利用(井上原子力局 科学調査官 二十分)
②計測制御(浜田日立製作所中央研究所副所長 三十分)
③トレーサー技術(濱村信化学)

報告分担事項

△経済特別研究会(十一月八日午後一時)
△日本原子力学会設立実行委員会(十日午後五時)
△原子力記者会見(十日午後三時)

R1講習會

放射線取扱主任者受験に際し、原産中部原子力懇談會では、来年四月からの実施される予定の第三回放射線取扱主任者試験受験者のため、十一月二十三日から四日間、毎日午前九時から午後五時まで、名古屋商工会議所で講習会を行なう。R1講習會を開く。聴講料は一名千五百円。科目は以下のとおりである。(カ)内容は講師依頼先)法令(原子力局)管理技術(原研)物理(大谷)化学(名大)試験または(名大)生物学(名大)試験問題検討(名大)試験および(名大)測定技術(名大)試験)実習(名大)試験)

幹事會で方針審議

日本原子力産業協会中部原子力懇談會では、十一月十七日午後一時から、名古屋市中区名古屋商工会議所で第十二回幹事會を開き、次の諸議案を審議した。

①地方における原子力平和利用推進策について(別項参照)
②本年度十一月以降の事業について(カ)カ)内に単に大学名、機関名のみを示したものは開催の場を(カ)カ)内に示す。
③放射線利用技術専門分科會(十一月十七日)(名大)「コアメ

力平和利用推進策について、文部省、大蔵省、政院に運動する。

Toshiba 東芝のラジオアイソトープ機器

測定器各種 (シンチレーション管、GM管、電子線計測器)

モニタ各種 (手記、目視、記録)

応用機器各種 (透視、検査、照射)

1000進型放射線計数器 (MG-204B型)

東京芝浦電気株式会社 東芝放射線株式会社

E.M.I. ELECTRONICS LTD.

デジタルデータシステムで
原子炉、加速器、宇宙線における
粒子測定ができる新装置

中性子スペクトロメーター

東陽通商株式会社

社長 奥村 喜和男

本社 東京都中央区日本橋本石町1-2
電話 日本橋(24)代表5276番

出張所 大阪市東区南本町4-37テコロンビル
電話 船場(25)1271-2番

写真は記録装置



優秀な透明度

アイソトープ利用の飛躍的發展から、放射線照射に使用する「遮蔽ガラス」の研究が注目されている。

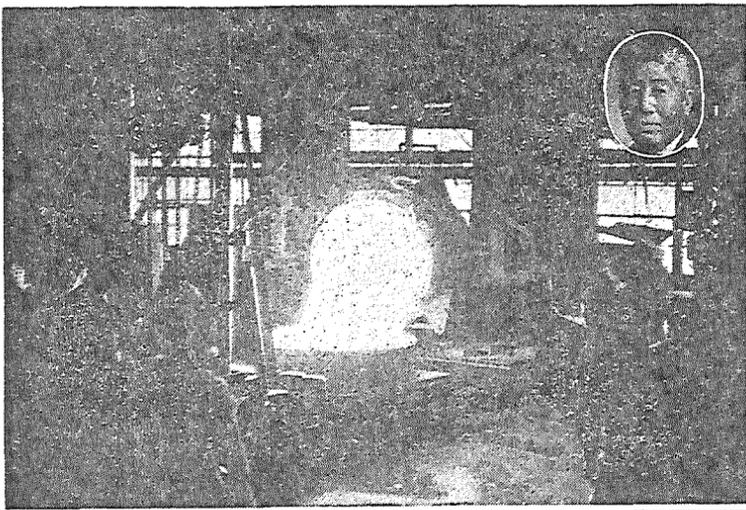
国際的水準の品質 放射線遮蔽ガラスの開発

日本光学工業

成果であることを考えれば、日本光学の場合、一年半ぐらいの仕事だからこれは立派なことだ。

大型鑄込法で

さて、この遮蔽ガラス製造の苦心談を、日本光学のガラス製造部長、方保長にきいてみた。



「透過度のよい、大きな厚いガラスが、工業的にどうしたとできるかというところだ。このためガラス原料の純度が、非常に要求される。また、原料をつくるのが問題だ。それに原料の割合も、コーニングのペントをよけてみるにはならないわけだ。またガラスにガンマ線がある。真黒に着色してしまう。ガラスに着色してしまふ。ガラスに着色してしまふ。ガラスに着色してしまふ。」

「白金のつぼ使用」 今後の問題は、もっと厚いガラスをつくることだ。放射線遮蔽ガラスでは、原料の溶解に不純物が入るため耐火材料のつぼが使えない。五〇リッター入りで、千五百円もする白金のつぼを使うわけだが、厚いガラスをつくるためには、この白金のつぼの大きいものを使わなければならない。現在五〇リッターの白金のつぼを使っていますが、近一〇〇リッターのつぼを使いたい。

「白銀のつぼ使用」 今後の問題は、もっと厚いガラスをつくることだ。放射線遮蔽ガラスでは、原料の溶解に不純物が入るため耐火材料のつぼが使えない。五〇リッター入りで、千五百円もする白金のつぼを使うわけだが、厚いガラスをつくるためには、この白金のつぼの大きいものを使わなければならない。現在五〇リッターの白金のつぼを使っていますが、近一〇〇リッターのつぼを使いたい。

原子力センター完成

日立中央研究所敷地に

日立製作所は、同社の原子力開発部門を分散して行なっていた原子力関係の研究は、一個所に集まり、効果的に行なうことになった。

日立製作所は、同社の原子力開発部門を分散して行なっていた原子力関係の研究は、一個所に集まり、効果的に行なうことになった。

日立製作所は、同社の原子力開発部門を分散して行なっていた原子力関係の研究は、一個所に集まり、効果的に行なうことになった。

日立製作所は、同社の原子力開発部門を分散して行なっていた原子力関係の研究は、一個所に集まり、効果的に行なうことになった。

日立製作所は、同社の原子力開発部門を分散して行なっていた原子力関係の研究は、一個所に集まり、効果的に行なうことになった。

原子力関係 機器総覧

科学技術社発行 本書は原子力の研究開発ならびに利用関係の機器、材料を大成し、体系的に十章に分類して、原理的な解説と、各機器メーカーの機器カタログを併せ編集したものである。

科学技術社発行 本書は原子力の研究開発ならびに利用関係の機器、材料を大成し、体系的に十章に分類して、原理的な解説と、各機器メーカーの機器カタログを併せ編集したものである。

科学技術社発行 本書は原子力の研究開発ならびに利用関係の機器、材料を大成し、体系的に十章に分類して、原理的な解説と、各機器メーカーの機器カタログを併せ編集したものである。

科学技術社発行 本書は原子力の研究開発ならびに利用関係の機器、材料を大成し、体系的に十章に分類して、原理的な解説と、各機器メーカーの機器カタログを併せ編集したものである。

科学技術社発行 本書は原子力の研究開発ならびに利用関係の機器、材料を大成し、体系的に十章に分類して、原理的な解説と、各機器メーカーの機器カタログを併せ編集したものである。

原子力災害補償調査員出発

原子力委員会に引き継いだ原子力責任賠償制度、国家補償制度の具体と動向、賠償責任についての私法上の問題点など、原子力災害補償に關する調査員を海外に派遣することとなったが、十一月二十八日午後十時羽田から出発した。

原子力委員会に引き継いだ原子力責任賠償制度、国家補償制度の具体と動向、賠償責任についての私法上の問題点など、原子力災害補償に關する調査員を海外に派遣することとなったが、十一月二十八日午後十時羽田から出発した。

原子力委員会に引き継いだ原子力責任賠償制度、国家補償制度の具体と動向、賠償責任についての私法上の問題点など、原子力災害補償に關する調査員を海外に派遣することとなったが、十一月二十八日午後十時羽田から出発した。

原子力委員会に引き継いだ原子力責任賠償制度、国家補償制度の具体と動向、賠償責任についての私法上の問題点など、原子力災害補償に關する調査員を海外に派遣することとなったが、十一月二十八日午後十時羽田から出発した。

原子力委員会に引き継いだ原子力責任賠償制度、国家補償制度の具体と動向、賠償責任についての私法上の問題点など、原子力災害補償に關する調査員を海外に派遣することとなったが、十一月二十八日午後十時羽田から出発した。

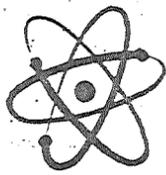
発行所 東京都中央区日本橋通二丁目一の八、電話(03)22321、科学技術社

原留懇映画会 原子力海外留学者懇話会では、十一月一日午後二時三十分から映画会を開き、次の映画を上映した。

講演をおえて帰国 分析化学の大家、フランス国立大学、東京大学、東大工学部の講演を終り、十一月十日羽田を離陸した。

アイソトープ利用と研究成果の集大成 発売中 第2回 日本アイソトープ会議報文集 B5判 8冊横2段組 約700頁 上製箱入 総目次・著者索引完備 定価 2500円(送料別)

日本学術会議編 定価 4,800円 第2回 原子力シンポジウム報文集 限定版 B5判 8冊横2段組 4分冊箱入 総頁1060頁(図面・写真約1,500枚)



原子力産業新聞

第93号
昭和33年12月25日
毎月3回(5日、15日、25日)発行
1部7円(送料不要)
購読料1年分前金200円

昭和31年3月12日第三種郵便物認可

発行所 日本原子力産業会議

東京都港区芝田村町1の1(東電ビル3階)

電話(59)6121-4

振替東京5895番

日本原子力産業会議 関西原子力懇談会委員会 第四回・任期満了の全役員を決定



写真(上)は原産関西原子力懇談会委員長に再選された杉道助氏(大阪商工会議所会頭)と(下)新たに副委員長となった森寿五郎氏(関西電力副社長)

委員長に杉氏を再選

副委員長は土井、森両氏

日本原子力産業会議関西原子力懇談会では、十二月十二日委員会を開き、役員、参与を決定したが、委員長には杉道助氏が再選され、副委員長は土井正治、森寿五郎両氏にきまつた。

新役員・新参与の顔ぶれ

原産関西原子力懇談会の新役員
新参与は次のとおりである。

- 委員長 杉道助
- 副委員長 土井正治、森寿五郎
- 顧問 岡田三、堀新
- 顧問 岡田三、堀新
- 顧問 岡田三、堀新



- 委員
- 神戸製鋼所社長 長平
- 日本新報社長 岡部孝次郎
- 関西電力社長 太田垣士郎
- 久保田社長 小田原大造
- 島津製作所社長 鈴木庸輔
- 川崎重工社長 手塚敏雄
- 住友金属社長 田村寿一
- 日立造船社長
- 松原三三
- 日本船主協会会長 山根勝見
- 東洋レヨン常務 岩水謙
- 住友電工社長 北川一栄
- 東洋ゴム社長 富久力松

原産・関係方面に進達

原子力船懇談会常任幹事会の成果

日本原子力産業会議では、十一月十日原産原子力船懇談会常任幹事会の「原子力第一船建造の促進に関する構想」を関係方面に進達すると共に、一般に対しても発表した。これは原子力船の開発は、今や実船を建造して研究すべき時期にいたっている。それには費用を兼ねた実験船が適当であると述べられている。

国際競争既に開始

早急に方針の確立が必要

日本原子力産業会議原子力船懇談会では、今年初め発足と同時に三隻造船、日立造船、石川島重工業、川崎重工、日本造船工業、飯野海運、大阪商船、日本郵船三井物産日本郵船協会をメンバーとする常任幹事会を設け、原子力船開発の促進について資料として「原子力第一船建造の

原子力第一船建造の促進に関する構想

「一試案」を添付してある。その結論として、①すみやかに原子力船開発の基本方針を確立すること、②原子力第一船として実験船建造を推進すること、③二点について適切な措置の講ぜられることが、きわめて重要であるとしている。

構想の内容

「原子力第一船建造の促進に関する構想」は、①まえがきで、原子力船の優秀性が確認されつつあ

化学工業の先端をゆく
粒状尿素 過燐酸石灰 工業薬品
硫 安 尿 素 化 成 尿 素 樹 脂

東洋高圧

中部の専門分科会
原産中部原子力懇談会では、名古屋大学工学部の協力で、十一月十一日午後一時から、名古屋大学工学部で、第四回原子力専門分科会を開いた。

小規模な実用兼実験船建造について
原子力第一船として実験船を選定した理由の第三、小規模な実用兼実験船建造については、次のように述べられている。

原子力第一船として実験船を選定した理由の第一、何故に実験船の建造は早期になされなければならないかについては次のように記述されている。

お仕事は力いっぱい
お酒も飲むなら健康に...

胃腸を害さない
かぜに
アルペン

中外製薬株式会社

